



健康ひとくちメモ

経営者・従業員のための



(公財) 福井県健康管理協会
臨床検査技師 棗 敦

尿検査について

尿検査は腎臓の機能を調べる為の重要な検査です。痛い思いをせず検査できるのが尿検査の利点です。

腎臓は尿をつくることによって体の老廃物を処理し、体液の恒常性を維持する（体の機能を適切に保つ）大切な臓器です。

体に異常があると本来排出されるべきでないものが排出されます。それらを調べることによって病気を発見することができます。



◆尿蛋白

尿の中に蛋白が出ていないか調べる検査です。通常は陰性です。

腎臓に流れ込んだ血液は、まず腎臓の中にある糸球体という場所です。過されます。この際、蛋白質などの大きな物質はほとんどろ過されません。わずかにろ過された蛋白質も、正常であれば尿細管という細い管を通過している間に体の中に再吸収さ

れます。しかし、腎機能が低下すると体にとって必要な蛋白が腎臓から

もれ出てきます。腎疾患ではほとんどの場合、尿蛋白が陽性となり、一般的には尿蛋白の量が多いほど重篤な疾患・病状であるといえます。

尿蛋白は発熱、過剰な運動、長時間の立った姿勢などによっても出る場合もあります。尿蛋白が陽性であった場合には、必ず医療機関を受診しましょう。

◆尿糖

尿の中に糖が出ていないかを調べる検査です。通常は陰性です。

尿糖は尿の検査ではありませんが、腎臓の病気というより糖尿病の検査です。腎機能が正常でも、血糖値が高い場合に尿糖が陽性になるため、糖尿病の発見に役立ちます。

ただし体質的に尿に糖が出現しやすい方や、糖尿病でなくても食直後には尿糖が検出されやすいなどの限界もあり、糖尿病の診断には血液検査が必須となります。

◆尿潜血

尿の中に血液が混じっていないか

を調べる検査です。通常は陰性です。尿は両側の腎臓から尿管を通して膀胱にたまり、尿道を通して排泄されます。尿の通り道に出血しているところはなにかを調べています。

腎炎に伴うもの、尿路結石、尿路感染症などの良性疾患、膀胱や尿路系の腫瘍（がん）などで陽性となることが多いです。陽性の場合にはさらに詳しい検査が必要です。

特に高齢者、肉眼的な血尿が出たことがある、喫煙歴があるなど、尿路系の腫瘍になるリスクの高い方は、膀胱のエコー検査や、尿の細胞診の検査を、お受けいただくことをおすすめいたします。

